

復興構想会議での検討にあたって（平成23年5月3日）

要 望 先
緊急災害対策本部 本部長 内閣総理大臣 菅直人
国土交通大臣 大島章宏
民主党災害対策本部 本部長 岡田克也
民主党福島県連災害対策本部 本部長 増子輝彦
民主党 衆議院議員 渡部恒三
自由民主党災害対策本部 本部長 谷垣禎一
自由民主党災害対策本部 副本部長 大島理森
自由民主党 衆議院議員 吉野正芳
自由民主党 参議院議員 岩城光英

※ 要望先については、順不同、敬称略としております。

復興構想会議委員による現地視察におけるいわき市長意見

本市は、このたびの大震災において、大地震、大津波、原子力発電所の事故及びこれにより生じた様々な心ない風評の流布、さらには本市南部を震源地とする余震により大規模な土砂崩落、断層の亀裂の発生など、正に「多重被災」の特徴を有しており、他の被災地と同じような紋切り型で一律のものではなく、地域特性を踏まえての復興ビジョンの取りまとめを期待いたします。

1 復興構想の「基本的な考え方」

- 1つには、全市民が共有できる「復興の姿」を明確に示すこと。
 - 2つには、法令・制度など従来の枠組みに捉われない柔軟な発想による政策の立案と早期かつ確実に具現化すること。
- 以上の2点を提案いたします。

2 「復興にあたり重視すべきこと」

(1) 1点目は、「市民の安全・安心を最大限に確保すること」であります。

大津波によりり災した沿岸部は、約60kmの長い海岸線を有し、それぞれに地域の特性も異なることから、必要に応じ、私有財産権への規制も考慮しながら、地域の実情、特性に配慮した安全で安心できるまちづくりを進めることが必要です。

また、市民生活の基盤となる産業の振興とこれを下支えする社会資本の整備は同時一体的に取り組むことが必要です。とりわけ小名浜港の早期復旧は工業都市いわきの復興のみならず、電力の安定供給の一助としても必要不可欠であります。

(2) 2点目は、「更に活力を備えたまちの創造」であります。

1つには、国内有数の日照時間、広大な山林から産出される木材集積量などの本市が有する地域特性を最大限に生かし、太陽光発電、木質バイオマスなどの新エネルギーの積極的な導入を進め、エコ日本一のまちづくりを目指します。

2つには、本市には、従来の火力発電よりも発電効率の高い石炭ガス化複合発電（IGCC）の実証プラントや、携帯電話からハイブリッドカーにいたるまでの電池開発に欠かせない試験装置技術、さらには、宇宙航空技術分野における蓄電池技術を有する企業などがあり、これまで蓄積されてきた技術等の本市の地域資源を最大限に活用し、更なる産業・技術の集積を図り、世界をリードする新産業・研究都市づくりを目指します。

このためには、国としても本市と一体となって取り組んでいただきたい。

復興構想会議委員による現地視察（意見交換）資料

1 基本的な考え方

(1) ビジョンの明確化

（長期的・継続的な復興をめざすための全ての市民が共有できる「復興の姿」を明確化）

(2) 柔軟な発想とその具現化

（既存の法令・制度等、従来の枠組みに捉われない政策立案と早期・確実な具現化）

2 復興にあたり重視すべきこと

(1) 市民の安全・安心を最大限に確保すること

(2) 震災前より、更に活力を備えたまちの創造を目指すこと

①市民の安全・安心の最大限の確保

市民の安全・安心には、住む場所の安全のみではなく、生活の基盤となる産業振興が不可欠であり、これを下支えする社会資本の整備と併せ、復興に向け、同時・一体的に取り組む必要がある。

【住】

◇沿岸域

○「住」づくり

・「既存市街地への住替え」「新市街地の形成」など、地域特性を捉えた住民主体のまちづくりを進めるなかで検討。

○「安全安心」づくり

・「防波堤等の早期整備」、併せて鉄道、道路等の高架、防風林など、津波被害を分析した、効率的・複合的な対策を検討。

◇市域全体

○住宅等の耐震対策促進

○水道等ライフラインの代替確保

○公共施設の適正配置と多機能化推進 など

【働】

◇沿岸域

○「基盤」づくり

・漁港の復旧、再編など、漁業の基盤づくり
・土壌改良、施設（工場）園芸の促進など、強い農業の基盤づくり

○「魅力」づくり

・「海洋」「海岸線」などの資源を活用した海洋性レクリエーションの振興
・水産加工施設等の復旧、集約、観光化など、新たな観光資源の開発

◇市域全体

○強い農林水産業づくりに向けた生産基盤整備、研究体制の確立、販売体制の充実など

○製造業の安定維持・振興に向けた支援の充実

○観光産業の復興・振興に向けた支援の充実 など

【社会資本の整備】

<早急に取り組む事項>

○小名浜港の早期復旧と国際バルク戦略港湾指定 など

<中長期的に取り組む事項>

○小名浜港の物流拠点としてのさらなる整備

○高速道路、JR等の高速交通体系の再構築 など

②更に活力を備えたまちの創造に向けて

テーマ1

「循環を基調とした、持続可能なまち」～エコ日本一のまちづくり～

- 国内有数の日照時間や、日本有数の市域面積を有し、その約7割を山林面積が占めるといった木材集積量などのいわき市の地域特性を最大限に活かし、太陽光発電、木質バイオマスなどの新エネルギーの積極的な導入を進める。
 - 太陽光発電システム、太陽熱発電システム等の太陽エネルギーの利用拡大に向けた取り組み
 - 木質バイオマスエネルギーの利用拡大に向けた取り組み
 - バイオマスエネルギー（エタノール、廃食油、菜種油など）の利用拡大に向けた取り組み
 - 風力発電の整備促進

テーマ2

「活力に満ち、創造力あふれるまち」

～世界に誇れる新産業・研究都市づくり～

- これまで整備されてきた社会資本や蓄積されてきた技術等の本市の地域資源を最大限に活用し、21世紀の世界をリードする新産業・研究都市づくりを進める。
 - 新エネルギー産業の集積
(太陽光パネル、燃料電池、電気自動車等の製造等に関する産業等の支援・集積)
 - 環境産業の集積
(リサイクル、食物残渣・木材残渣等の再利用等に関する産業等の支援・集積)
 - エネルギー等に関する研究機関等の集積
(石炭ガス化複合発電、超伝導など、エネルギー開発等に関する機関の集積)
 - 海洋・海底資源等に関する研究機関等の集積
(天然ガス、メタンハイドレート等の開発等に関する機関の集積)
 - 健康・医療機関、健康・医療産業の集積
(浜通り地方全体を捉えた健康・医療に関する機関、産業の集積)
 - 大学等高等教育機関における学科及び研究体制の再編・充実強化

○本市は、自然エネルギーの開発、産業・研究機関の集積等に適している。

【いわき市の特徴】

- ・首都圏へのアクセスが良い（高速道路、幹線道路、JR、港湾）
- ・広大な市域面積の中に海や山などの多様な自然がある
- ・30万人を超える人口がある
- ・大学や高等専門学校などの教育機関がある
- ・工業都市としての技術がある